



01	#ご挨拶	新入生の皆さんへ 学長 平田 收正	14	#COLUMN	卒業生からのメッセージ
02	#ご挨拶	定年退職のご挨拶	15	#EVENT	白衣授与式
05	#NEWS	2026年度学費等の納入について		#NEWS	Library News
	#NEWS	本誌のデザインをリニューアルしました!	16	#EVENT	2025年度 多職種連携教育 (IPE) 研修会
06	#EVENT	薬用植物園開設100周年記念イベントを終えて	17	#REPORT	2026年度大学院入学選考結果
08	#Feature Article	新校舎「飛翔館」が完成しました		#NEWS	人事
10	#NEWS	生涯教育センターからのお知らせ	18	#COLUMN	私の薦める、私の一冊
11	#NEWS	京薬会だより	20	#COLUMN	学生相談室だより
12	#NEWS	奨学金・授業料減免制度について	21	#NEWS	クラブ・サークル紹介
13	#REPORT	単位互換制度～より多くの他大学科目を認定できるようになりました～	22	#REPORT	受賞・掲載
			24	#REPORT	京都薬科大学奨学金寄附金芳名録

学長就任にあたり

ひらた かずまさ
 学長 平田 收正



伝統と実績を礎に、次世代の医療と健康を担う 優れた薬学人材を育成する

京都薬科大学は、1884年に京都私立独逸学校として創立されて以来、明治、大正、昭和、平成、そして令和に至る142年に渡り、多くの優れた薬学人材を輩出してきました。創立に貢献したドイツ人教師・ルドルフ・レーマンの学生に対する“Philosophia et Praktikos”という教えは、学問を愛し、実践する「愛学躬行」として本学の建学の精神となっています。京都薬科大学の長い歴史と伝統の中で、「愛学躬行」は25,000人を超える卒業生、そして在学学生に受け継がれており、薬学人材としての活躍と社会への貢献を支える精神と言えます。

現在、高等教育機関としての大学では、今後到来する予測困難な時代を担う学生に対して、自律的な学修者となることが求められ

ています。自律的な学修とは、「学生自身が目標を明確に意識しつつ主体的に学修に取り組むこと、その成果を自ら適切に評価し、さらに必要な学びに踏み出していく」こととなります。薬学人材が担うべき医療についても、少子高齢化が進み、また健康を脅かす感染症の蔓延や難病・希少疾患の増加等が危惧される中、未来のダイナミックな変化に的確に対応することができる自律的な薬剤師を育成することが求められます。

「愛学躬行」は、学問を修め究めるために自ら実践すること、すなわち自律的な学修者になることを志向するものであり、京都薬科大学は、薬学部、そして大学院において、学生の「愛学躬行」を支える高度な学修者本位の教育として、「何を学び、身に付けることが

できるのかを明確にし、学修の成果を実感できる教育」を提供します。これによって、先進医療や創薬、保健衛生等において指導的な立場で活躍し、医療の発展、健全な社会の発展に貢献できる自律的な薬剤師の育成を推進します。

京都薬科大学の財産は、学生の自律的な学修を支えることができる医療、創薬、行政、保健衛生等の薬学分野で活躍する多くの卒業生からの支援、学究の場とし

て充実した環境・設備、そして薬学教育研究において豊富な経験と優れた実績を持つ教員陣からの支援にあります。これらを礎として、京都薬科大学は「研究の京薬」としてのブランディングの向上を図ります。すなわち、「研究の京薬」として、自律的な薬剤師としての活躍や貢献に必要な研究能力（課題発見・問題解決能力にとどまらず、創造的思考力まで）を備えた優れた薬剤師の育成を

進めます。

悠久の歴史の中で、伝統と文化が息づく京都の一角、山科に位置する本学において、学生が未来の医療、そして未来の薬学の発展を担う人材として成長し、社会、そして世界に羽ばたくことを願って、わたくしのご挨拶とさせていただきます。

定 年 退 職 の ご 挨 拶



基礎科学系
数学分野

うわの よしお
教授 上野 嘉夫

2026年3月末で京都薬科大学を定年退職することになりました。私は、1988年10月の京都大学工学部助手採用を振り出しに、同大学講師、助教授を経て、2005年4月に公立ほこだて未来大学教授となり、2014年10月に基礎科学系数学分野教授として着任いたしました。本学での教員生活は、私の全教員生活の3分の1に満たない期間ではありましたが、Covid-19禍の最中に学生部長を拝命していたこともあり、実際よりも長かったように感じて

います。その多難な期間も超えて定年を迎えられましたのも、ひとえに皆様方のご支援あってのことと厚く御礼を申し上げます。

定年を機に自らのキャリアを振り返ると、国立総合、公立単科、私立単科の大学に勤務し、工学系、情報系、薬学系を対象に数学を教えるという、実に多様で面白い経験を重ねたと感じています。数学の研究も、組織からの注文なしで自由に進められました。定年後は、これまでと異なるバランスで、余暇を楽しみつつ研究・教育にも関わることとなります。結びに、京都薬科大学と本学に関わる皆様方の益々のご発展を祈念し、今一度感謝を申し上げます。退職の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



医療薬科学系
薬物動態学分野

さかえだ としゆき
教授 栄田 敏之

私事で恐縮ですが、2026年3月末で京都薬科大学を定年退職することになりました。2014年4月、前任の高田寛治先生の後任として着任後、12年間、教育職員としての機会を与您いただきました。本学の役員、職員の方々のご支援、ご協力のおかげで何とか無事、教員生活を終えることができました。素晴らしい方々と出会うことができました。幸運だったと思います。学生の方々もまた素晴らしい方々ばかりでした。この場をお借りして、改め

て厚く御礼申し上げます。

この12年間、本学の伝統と歴史の重みを身に染みて感じながら、時として、その重みに押し潰されそうになりながら、毎日のように、本学の学生の方々の将来に役立っているのか、本学の発展に貢献できているのか、自問自答しておりました。答えは見つかっておりませんが、この12年間の経験は、私の貴重な財産となっています。

最後になりましたが、今後の皆様のご健勝とご多幸、並びに本学の今後の益々のご発展を祈念申し上げ、定年退職の挨拶とさせていただきます。大変お世話になりました。



薬学教育系
臨床薬学教育研究センター

はしづめ つとむ
教授 橋詰 勉

このたび、2026年3月末をもって京都薬科大学を定年退職いたしました。私は、1980年に本学へ入学の後、学生、大学院生、教員の立場で46年間、本学に籍を置いてきました。1986年に恩師・藤井達三先生が主催される生化学Ⅱ教室助手として着任以来、現在の臨床薬学教育研究センターに配置換、薬学部6年制への移行などの経緯の中で、充実した日々を過ごしました。特に6年制における医療現場での実務実習では、病院や薬局との新たな関

係構築に難しさがありましたが、その実習を通じ学生たちの成長をじかに感じ得たことは自分へのエネルギーになりました。また顧問を担当していた管弦楽部のメンバーが楽しさと悩みを抱えながら皆で演奏を作り上げる過程は素直に応援できました。長きにわたり学生たちを教育・指導する立場ではありましたが、躍動する学生たちから力ももらっていたのはむしろ私の方だったのだと実感します。

最後になりますが、これまでの教員生活を支えていただいた教職員の皆様に心から感謝申し上げます。今後の皆様のご健勝とともに、本学のますますのご発展を祈念いたします。長い間、誠にありがとうございました。



薬学教育系
薬学教育研究センター

教授 細井 信造
ほそい しんぞう

薬学部は、ただ資格を取得させればよいというものではなく、人間性豊かな、知識・技能・態度のバランスのとれた薬剤師（研究マインドを持った）として社会に送り出すその責務を負っています。問題に直面したときに、その解決方法を即座に考え、適切に行動に移すことができるように教育することが大学の重要な使命であります。資格を当たり前のように取得できるように指導しなければならないのも事実です。これは薬学部が4年制から6年制に移

行してから一層顕著になったように思います。薬学部の評価が得てして、国家試験の合格率のみに目が向けられがちですが、付け焼刃の教育ではなく、真の実力を醸成する対策・方法論も評価されるべきと考えます。6年制薬剤師国家試験では、実験データに基づいて考えさせる問題が出題されるようになりました。このことから薬剤師の資格試験という枠を超え、研究を通して学ぶべきことがたくさんあり、それは薬剤師にとっても必要かつ重要であると改めて感じています。

最後に、これまでお世話になった方々への感謝の意を表すとともに、本学の益々の発展を祈念申し上げます。



事務局
局長 松田 成史
まつだ しげふみ

2021年5月に事務局次長として本学に赴任し、翌年4月からは事務局長として務めさせていただきました。私立の薬科大学という未経験の職場であり、関西での生活も初めてでしたが、皆様方のご指導ご支援のお陰で何とか無事に退職の日を迎えることができました。

皆様には本当にお世話になり、ありがとうございました。

趣味で寺社巡り、御朱印集めを楽しみにしており、京都（住まいは天津）暮らしは私生活でも充実できました。山科に勧修寺（かじゅうじ）という古刹があるのは

ご存知でしょうか。赴任後間もなく参拝した折、その山門で次の言葉に出会いました。

『希望に起き 愉快地に働き 感謝に眠る』

日々いろいろなことがありましたが、以来この言葉をデスクに書きおいて、朝は希望に目覚め、日中は楽しく働いて、夜には感謝を胸に床に就くということを意識して生活してきました。

機材費等の急騰のため、大幅な計画変更となった新棟も、「飛翔館」としてキャンパスに新たな彩りを放っていますことも、関わった者として臆のようで嬉しい限りです。

木曾理事長、平田新学長、森新事務局長の下で、京薬がこれからますます発展していきますことを心より祈念申し上げます、お別れのご挨拶といたします。

皆様お元気で！

2026年度学費等の納入について

／経理財務課

学費等の納入については、口座振替を原則としています。口座振替の申込をされている方は、振替日の前日までにご指定の口座に授業料等相当額を入金しておいてください。なお、2023年度以前に入学され、口座振替の申込をされていない方には、納付書[※]を送付します。

●口座振替

	前期	後期
口座振替日	4月27日	10月27日
再振替日	5月23日	11月23日

- 振替日が金融機関の休業日(土日・祝日)の場合は、翌営業日となります。
- 振替にかかる手数料は本学が負担します。
- 再振替日は、前月の振替日に残高不足等により口座振替ができなかった場合に振替します。
- 振替通知は、口座振替の申込時にご登録いただいたメールアドレスに振替1週間前に通知します。

- 経済的な事情により、期日までに納入ができない場合は、学生相談員(3年次後期以降は分野主任)に相談し、事務局学生課にて速やかに学費延納手続きを行ってください。
- 所定の期限までに納入がない場合は、講義・実習等の受講及び各種証明書の発行が停止され、定期試験等の受験資格を失うほか、進級・卒業にも影響し、場合によっては退学処分となりますので、十分注意してください。

※これまで「京都銀行」および「三井住友銀行」からのお振込みにつきましては、振込手数料は無料となっておりましたが、2026年度以降「三井住友銀行」からのお振込みには振込手数料が発生いたします。なお、「京都銀行」からのお振込みにつきましては、従前どおり振込手数料は無料です。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

本誌のデザインをリニューアルしました！

本学学内広報誌「KPU_{NEWS}」は学内の情報を発信する媒体として1968年12月より発刊(当時の名称：学園ニュース)しています。1995年度に現在の「KPU_{NEWS}」という名称になり、今回は2015年1月以来の全面デザインリニューアルとなりました。

今後も学内の様々な情報発信を行っていきますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



薬用植物園 | なかむら せいこう 中村 誠宏 (園長) つきおか じゅんこ 月岡 淳子

本学薬用植物園は、京都薬学専門学校(1919-1949)の薬草園として1925年に開設され、2025年に100周年を迎えました。薬用植物園の歩みや概要につきましては、KPU_{NEWS} No.221(2025年4月号)でご紹介していますので、バックナンバー(本学HPで閲覧可)も併せてご覧ください。100周年という節目の年に、薬草園の開設・発展に尽力された教職員、OB・OGの皆様、さらに学外関係者の皆様から賜った多大なるご支援への感謝の意を込めて、さらに50年、100年続く薬用植物園を目指して今後の在り方を考えるべく、シンポジウムと公開講座を開催しました。

■京都薬科大学薬用植物園 開設100周年記念シンポジウム

大学薬用植物園は絶滅危惧種か ～次世代の大学薬用植物園の在り方を考える～
(主催：京都薬科大学薬用植物園 共催：日本生薬学会)

日 時：2025年9月13日(土)18:00～19:00

会 場：崇城大学薬学部キャンパス(熊本市)

〈講演1〉戸部 博(京都府立植物園 園長)

「変わる大学薬用植物園：16世紀以降にヨーロッパで開園した数々の大学薬用植物園の現在からみえること」

〈講演2〉野崎香樹(武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園 園長)

「武田薬品 京都薬用植物園の歩みとこれから」

大学設置基準第8章39条(昭和31年10月22日施行、文部省令第28号)では、薬学に関する学部又は学科は、教育研究に必要な施設として薬用植物園(薬草園)を置くことが定められており、薬学教育における薬用植物園の重要性が示されています。「大学薬用植物園」という極めて専門性の高い植物園の存続・発展のためには、現状維持に留まることなく、独自性のある教育および研究の展開が求められます。その実現に向けて、公立植物園、企業の薬用植物園、大学薬用植物園のそれぞれの特色を生かした取り組みや課題を共有し、意見交換する機会としてシンポジウムを企画しました。日本生薬学会年会(2025年9月14・15日)会場の崇城大学薬学部キャンパスにて開催し、薬用植物、生薬、天然物の研究に携わられる大学・企業等関係者(約80人)に参集いただきました。崇城大学薬学部および日本生薬学会の関係者の皆様には、ご理解、ご協力を賜りましたこと、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

シンポジウムでは京都から2名の講師をお招きしました。京都府立植物園の戸部博園長には、イタリア・パドヴァ大学(1222年創立)付属の植物園として1545年に設立されたパドヴァ植物園をはじめ、16世紀以降、大学の付属植物園として開設され、現在も存続している植物園について歴史、価値、役割、現状、さらにそれらの植物園が時代ごとに目的や役割について議論がなされ、変化してきた実例をご紹介いただきました。

武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園の野崎香樹園長には、京都武田薬草園として1933年に開園してからの歩みや現在の活動、さらに今後の展望についてご講演いただきました。特に生物多様性保全活動について、樹木園が植物園として国内で初めて環境省「自然共生サイト」に公式認定、堀川ごぼりや鹿ヶ谷かぼちゃんなど地域に伝わる伝統野菜の保存活動、植物遺伝資源の利活用の最大化を目指した「種苗のオープンソース化」という、「守る・つなぐ・伝える」という3つのアクションを軸にした取り組みをご紹介いただきました。

大学薬用植物園の在り方については、一朝一夕に結論が出るものではありませんが、今回は、大学薬用植物園や生薬、天然物研究領域の皆様と、具体的な事例を共有し、意見交換することができ、将来のビジョンの明確化に向けた第一歩として有意義な機会となりました。



シンポジウム会場の様子



戸部 博先生



野崎香樹先生

10月には、植物園機能の1つである教育啓発活動の一環として、一般市民を対象にした公開講座を開催しました。(参考：<https://www.kyoto-phu.ac.jp/news/detail.html?itemid=1634&dispmid=910&TabModule987=0>)

■京都薬科大学薬用植物園開設100周年記念 京都薬科大学 公開講座

(共催：次世代のがんプロフェッショナル養成プラン)

日 時：2025年10月26日(日)11:00～16:00

<第一部>薬用植物園御陵園見学

<第二部>植物園関連講演会

・中島正光(広島国際大学薬学部 生薬漢方診療学部門 教授)

「今こそ知りたい薬用植物のチカラ」薬草(漢方)で治す。諦めない。

～朝起きられない・気象病!それ、漢方で治せるフクロウ型体質(夜型体質)かも?～

<第三部>がんプロ共催講演会

・大森 眞樹(熊本県山鹿地区薬剤師会 理事/きらきら薬局)

あなたの人生の最終章、どう描きますか?

後悔しないための「人生会議(ACP)」と、心に寄り添う「グリーンケア」について

・高山 浩一(京都府立医科大学大学院医学研究科呼吸器内科学 教授)

肺がん薬物療法の進歩

御陵園見学では、時折小雨が降る天気にも関わらず、130人(事前予約)が来園、秋の植物をご覧いただきました。園内では、漢方医学研究部、植物研究部、薬用植物園、生薬学分野所属の大学院生、学部生(1-5年生)総勢25名が植物解説を行い、盛会に終わりました。

午後には講演会が開催され、約200人が聴講しました。植物園関連講演会では、広島国際大学の中島正光教授に、「今こそ知りたい薬用植物のチカラ」と題して、漢方の基礎や夜型体質(フクロウ型体質)の改善を中心に、漢方薬を私たちの生活の中でどのように活かしていけるのかについて、具体的な事例も交えながら大変分かりやすくお話いただきました。



御陵園見学の様子



講演会場の様子



中島正光先生

今回の大学公開講座では「学生と一緒に盛り上げる企画を」ということで、御陵園見学での植物解説以外に、華道部や写真部にも協力いただきました。講演会場(T31講義室)付近には、華道部による生け花6点を展示しました。薬用植物園および御陵園で栽培するサンシュユ、カンレンボク、クチナシ、カワラヨモギ、ワタ、メボウキ(バジル)などを使った生け花に、来場された皆様も足を留めてお楽しみくださいました。さらに、写真部と薬用植物園が共同で製作した2026年カレンダーを、公開講座参加者に配布し、大変ご好評をいただきました。



華道部による生け花展示



写真部とコラボ製作した2026カレンダー

開設100周年に際し、多方面から祝意のお言葉を賜りました。また、大学公開講座では薬用植物や漢方への関心度の高さを改めて感じました。京都薬科大学ならびに薬用植物園に寄せられる信頼・期待の大きさを実感し、そのご期待に応えることができるよう、101年目をスタートします。

新校舎「飛翔館」が完成しました

本学では2026年2月に新校舎「飛翔館」が完成、3月には竣工式を開催しました。地上4階建ての建物には大人数の学生が共に学び合える450名収容の大講義室、先端的研究の核となる「シナジー研究施設」、学生の集いの場と学びを支える「ラーニングcommons」、実習室などを設置しています。

いよいよ2026年度前期より学生の皆さんの教育・研究活動の場として供用を開始します。本誌では新校舎の主な施設を紹介いたします。

飛翔館の由来

大空へ力強く羽ばたいていくことを象徴する「飛翔」。

本学での研究や学びを通じて、未来で活躍してほしいという期待が込められています。

※新校舎の名称については2025年4月より募集を開始し、学内最終投票を経て「飛翔館」に決定しました。



飛翔館の外観

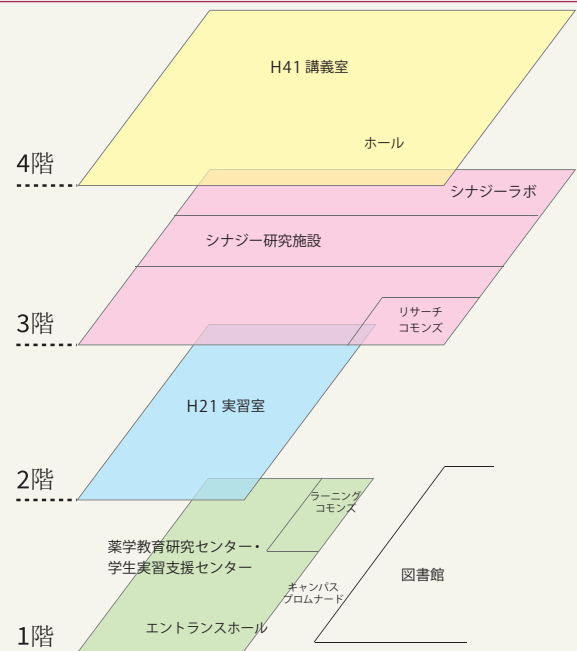


飛翔館入口

キャンパスマップ



フロアマップ



主な施設

1 階

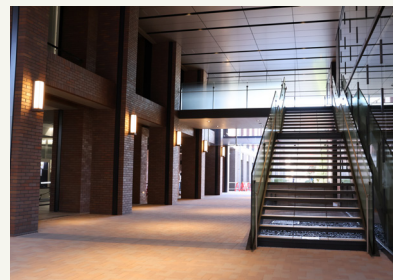
●エントランスホール

1階のエントランスホールはScience（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）を組み合わせた壁面装飾とし、本学が目標として掲げているバランスの取れた薬学人材の育成を表現しています。

●キャンパスプロムナード

図書館棟と隣接し、講義や研究に取り組む多くの学生が行き交うキャンパスプロムナード。テラスを設置し、開放的な空間で講義間の休憩にも利用可能です。屋外階段を使用することで各棟2階へスムーズにアクセスできます。

机や椅子などのインテリアは学生の意見を取り入れて選定し、利用しやすいスペースとなっています。



●ラーニングcommons

セミナー形式やグループワーク形式など使用目的に応じてテーブルや椅子の配置を自由に変更することが可能です。プロムナードを挟む図書館とも連携し、学生の主体的な学びをサポートします。

2 階

●H21実習室

各実習科目に応じた最先端の実習器具を備えており、約90人が主体的に実習を行い、基本的な知識・技能を修得することで、3年次後期からの研究活動にもつなげます。また、地域連携活動のイベントなどでも積極的に活用します。



3 階

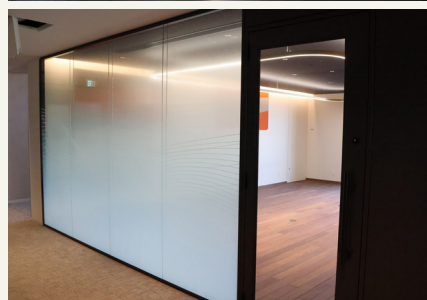
●シナジー研究施設

本学の先端的研究を推進するためのネットワーク型共同研究基盤の整備・強化を目的とした「シナジー研究施設」を設置。本研究施設の設置により、オリジナリティーの高い研究成果の創出と本学教育プログラムへの還元を目指します。加えて、大学院生やポストドク等の研究者に研究交流の場を提供することにより、「研究の京葉」として中心的役割を担うことを目指します。



●リサーチcommons

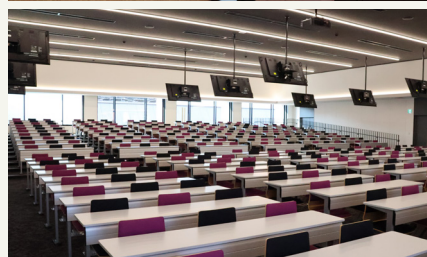
本学の先端的研究を進めるシナジー研究施設と同じフロアにある研究者のためのユーティリティスペース。様々な設備を有し、大学院生や研究者の学修スペースとしてはもちろん、ディスカッションや研究活動推進のためのコミュニケーションの場所としても使用が可能です。また、集中した環境で論文作成を行うこともできます。



4 階

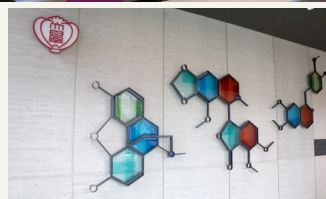
●H41講義室

4階に設置する講義室は、450名の学生を収容できる大講義室ながら、ICTを活用した双方向型授業の展開や学生持参端末の活用にも対応し、共に学びあう場を提供できる講義室です。また、他講義室との連携性を有し、本学の新たなランドマークとなる講義室として、各種シンポジウムなどの主会場の役割も担います。



●ホール壁面装飾

ガラスを用いた壁面装飾は本学の校章であるケンの主要な薬効成分として知られている、モルヒネ、ノスカピン、パパペリンの化学構造をもとにデザインされたものです。



2026年度卒後教育講座

～現場のニーズと社会情勢に応じた 全ての薬剤師に必要な知識を学ぼう～

* 日程：＜対面1日＞ 2026年7月26日(日) 10:00～16:00

＜オンデマンド配信＞ 2026年6月1日(月)～2027年2月28日(日)

* 場所：京都薬科大学愛学館3階A31講義室 & オンデマンド配信

* 定員：200名 * 参加費：12,500円(受講料12,000円、事務手数料500円)

* 申込受付期間：～2026年7月13日(月) * 認定単位：G24計10単位(1単位/演題)



対面3講義 ※オンデマンド配信も有り		
2026年 7/26(日)	10:00～11:30	ポリファーマシー問題を様々な切り口で考えるー AI × 薬剤師の未来ー 大阪府済生会中津病院 薬剤部長 萱野 勇一郎 先生
	12:30～14:00	薬物動態学をマンガのようにわかりやすく！基礎から学び直す 臨床のエッセンス 慶應義塾大学医学部 教授 / 慶應義塾大学病院 薬剤部長 大谷 壽一 先生
	14:15～15:45	地域を守る薬剤師に必要な健診の知識 大阪大学 キャンパスライフ健康支援・相談センター 特任教授 守山 敏樹 先生
オンデマンドのみ(eラーニング)7講義		
2026年 6/1(月) ↓ 2027年 2/28(日) 配信	①	生成AIとの共存ー明日から使える！生成AI仕事術のスズメー 昭和医科大学 統括薬剤部 / 薬学部 病院薬理学講座 臨床研究部門 准教授 百 賢二 先生
	②	薬物相互作用と腎機能の両面から考える医薬品適正使用：クリアランス理論の視点から 東京大学医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長 大野 能之 先生
	③	薬剤師もおさえておくべき循環器領域の代表的疾患と薬剤治療のトレンド 森山記念病院 副院長兼循環器センター長 清木 有宏 先生
	④	経口抗がん剤の副作用マネジメントー最近の話題を中心にー 京都府立医科大学附属病院 薬剤部 副主査 田淵 祐輔 先生
	⑤	現場で活かす「生物薬剤学」ー薬物動態を制御する因子とその変動ー 大阪医科薬科大学 薬学部 薬剤学研究室 准教授 本橋 秀之 先生
	⑥	現場で活かす「薬化学」ー化学構造式から医薬品の性質を推測しようー 京都薬科大学 薬化学分野 教授 古田 巧 先生
	⑦	現場で活かす「薬物動態学」ー医薬品情報を読み解くためにー 京都薬科大学 薬物動態学分野 助教 河淵 真治 先生

2026年度eラーニング講座

本年度の卒後教育講座10講義と京都漢方研究会例会12講義をオンデマンド配信します。

2025年度のコンテンツも再配信します。ニーズに合ったコースを選んでお申し込みください。

* 配信期間：2026年6月1日(月)～2027年2月28日(日)

* 参加費：①全視聴コース(44コンテンツ) 30,500円(受講料30,000円、事務手数料500円)

②当年度コース(22コンテンツ) 22,500円(受講料22,000円、事務手数料500円)

③卒後コース(20コンテンツ) 20,500円(受講料20,000円、事務手数料500円)

④漢方コース(24コンテンツ) 24,500円(受講料24,000円、事務手数料500円)

* 申込受付期間：～2027年2月25日(木) * 認定単位：G24 1単位/コンテンツ

● 申込方法 生涯教育センター公式Webサイトよりお申し込みください。 <https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>

● 問合せ先

京都薬科大学 生涯教育センター(事務局 教務課)

* E-mail: s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

* TEL: 075-595-4613

* FAX: 075-595-4792



生涯教育センター
問い合わせフォーム



卒後教育講座
申し込みページ



eラーニング講座
申し込みページ

● 本学の学生・職員は、講座の無料受講が可能です。

受講希望者は、生涯教育センターまでメールにてご連絡ください。皆様のご参加をお待ちしております。

1 白衣授与式

2月10日に白衣授与式が挙行されました。京薬会からは神川幹事より“実臨床の場での学び”、“人と向き合う力”をキーワードに実際の医療現場でたくさんの貴重な学びを得るよう熱いメッセージが送られました。その後、今年度より新たなデザインとなった本学の刺繍入り白衣を4年次生全員に贈呈して、2月16日から順次実務実習に向かう皆さんを激励しました。



2 京薬会NL（ニュースレター）No.2発行

今般、京薬会ニュースレター第2号を発行しました。「京薬会は変わります」と宣言して半年余り...さらなるその先を見据えて力強く走り出しました。詳細については、京薬会のホームページをご覧ください。



3 愛学躬行歴史資料室

★オープンデーの実施

毎月20日前後をオープンデーとして資料室を開放しており、展示品の閲覧や説明を聞くこともできます*。開催日や特設展示については、愛学館東側エントランスのモニターでもお知らせしています。

*：歴史資料室鈴木先生の解説ご希望の場合は、京薬会に予約してください

★図書館開設120周年のミニ展示

愛学躬行歴史資料室では、本年が「図書館開設120周年」であることから、3月19日（オープンデー）～6月30日の期間、関連する写真などのミニ展示をしています。また、日本に西洋医学を広め、ドイツにおいては日本の動植物等を紹介したシーボルトが、長崎出島から江戸まで往来する際、山科（本学北側の東海道）を通過して、ちょうど200年です。シーボルトに関する資料も併設展示とし、同時に図書館においても所蔵のシーボルト関係の書籍展示コーナーを設置しています。

★『愛学躬行歴史資料室レター』No.7、No.8の刊行

2025年12月23日付でNo.7「玄弥少年から嶋田先生へ(中)―京薬会第3代会長、嶋田弥一郎医師の子、蛇の目ミシン嶋田卓弥社長の兄―」を刊行しました。昨年の薬草園(今の薬用植物園)開園100周年との関連で、薬草園の維持に尽力した中心人物、島田玄弥先生を取り上げました。次に2026年2月5日付でNo.8「R.レーマンの70歳の誕生日と東京のレーマン会―OAG会長ルドルフ・レーマンの晩年―」を刊行しました。R.レーマンの70歳を機に、東京でもレーマン会が1911年(明治45年)・1912年(大正元年)に開催されたことなどを記載しています。いずれも右のQRコードからダウンロードしてご覧いただけます。



2026年度以降入学生より、奨学金・授業料減免制度が変更となりました。新制度の内容は、以下のとおりです。なお、2025年度以前に入学された方については、引き続き旧制度が適用されます。公募に関する情報は、随時 manaba にてお知らせいたします。

学業奨励型制度

● 特待生授業料減免

減免額 100万円（奨学金併給あり）

成績優秀者奨学金との併給により、
総額140万円の支援となります！

対象者

【1年次】

一般選抜及び共通テスト利用方式の入試成績上位者10名程度（対象者は、自動的に成績優秀者奨学生とみなします。）

【2～5年次】

特待生として入学し、標準修業年限内の卒業が見込まれる者であって、前年次の成績が上位20位以内かつ、得点率が9割以上の者

【6年次】

特待生として入学し、標準修業年限内の卒業が見込まれる者であって、1年次から5年次の総合成績が上位20位以内かつ、得点率が9割以上の者

通知方法

対象者に対し、合格者専用サイトで通知します。

その他

特待生となった者は、本学からの要請に応じて、母校訪問などの広報活動にご協力いただきます。

注）当減免は、高等教育の修学支援新制度に係る授業料等減免と併せて支援を受けることができます。

● 成績優秀者奨学金

対象者

【1年次】

特待生入学者

【2～5年次】

前年度及び当該年度に進級した者であって、前年次の成績が上位60位以内かつ、得点率が9割以上の者

【6年次】

標準修業年限内の卒業が見込まれる者であって、1年次から5年次の総合成績が上位60位以内かつ、得点率が9割以上の者

給付額

【1年次（特待生）】 40万円

【2～6年次】

1位～20位	40万円
21位～40位	30万円
41位～60位	20万円

その他

奨学生となった者は、本学からの要請に応じて、母校訪問などの広報活動にご協力いただきます。

経済支援型制度

● 高等教育の修学支援新制度

本学は、「高等教育の修学支援新制度」の対象校です。当制度に採用された方は、その支援区分に応じ、日本学生支援機構からの給付奨学金、大学の授業料等減免を受けることができます。申請資格や要件等については、日本学生支援機構ホームページ（右上の2次元コード）をご確認ください。

日本学生支援機構ホームページ



【支援額（非多子世帯）】

支援区分	奨学金額	授業料減免額	入学金減免額 (入学年度4月の採用者)
第Ⅰ区分	75,800円/月(自宅外) 38,300円/月(自宅)	700,000円/年	260,000円
第Ⅱ区分	50,600円/月(自宅外) 25,600円/月(自宅)	466,700円/年	173,400円
第Ⅲ区分	25,300円/月(自宅外) 12,800円/月(自宅)	233,400円/年	86,700円
第Ⅳ区分 私立理工農	本学(薬学部)は、理工農系の対象ではありません		

【支援額（多子世帯）】

支援区分	奨学金額	授業料減免額	入学金減免額 (入学年度4月の採用者)
第Ⅰ区分 (多子世帯)	75,800円/月(自宅外) 38,300円/月(自宅)	700,000円/年	260,000円
第Ⅱ区分 (多子世帯)	50,600円/月(自宅外) 25,600円/月(自宅)		
第Ⅲ区分 (多子世帯)	25,300円/月(自宅外) 12,800円/月(自宅)		
第Ⅳ区分 (多子世帯)	19,000円/月(自宅外) 9,600円/月(自宅)		
多子世帯	0円		

● 日本学生支援機構貸与奨学金

日本学生支援機構では、経済的事由で修学が困難な優れた学生に対して、学資の貸与を行っています。申請資格や要件等については、日本学生支援機構ホームページ(右記の2次元コード)をご確認ください。



日本学生支援機構
ホームページ

【貸与額】

種類	貸与月額	
	自宅通学	自宅外通学
第一種 (無利子貸与)	20,000円、30,000円 40,000円、54,000円 (何れかを選択)	20,000円、30,000円 40,000円、50,000円 64,000円 (何れかを選択)
第二種 (有利子貸与)	20,000円～120,000円の中から希望月額を選択 さらに最高金額(120,000円)に月額20,000円増額希望可能	
入学時特別増額 貸与奨学金(有利子)	10万円、20万円、30万円、40万円、50万円の中から選択 (大学1学年において入学年月を始期として奨学金 (第一種・第二種)の貸与を受ける者が対象)	

注) 日本学生支援機構給付奨学金と併給する場合、第一種奨学金の貸与月額は調整されます。

大学独自の授業料減免(家計急変)

主たる家計支持者の死亡、失業等により授業料の納付が困難となり、かつ、「高等教育の修学支援新制度」の対象外である者は、授業料の減免を受けられる場合があります。

国の教育ローン(日本政策金融公庫)

国の教育ローンとは、日本政策金融公庫が実施する公的な融資制度です。詳細は日本政策金融公庫ホームページをご確認ください。

REPORT

単位互換制度 ～より多くの他大学科目を認定できるようになりました～

／教務課

2026年度の大学コンソーシアム京都単位互換制度では、様々な大学から316科目が提供されます。

本学の卒業要件である「人と文化」科目として認定できる単位数は、これまでは年間で1科目2単位までとなっておりましたが、2026年度からは、前期1科目2単位まで、後期1科目2単位まで、通年科目の場合は1科目4単位まで認定されることとなりました。2026年度前期後期の出願締切は4月3日(金)12:00まで(後期追加出願締切は9月10日12:00まで)となっております。

本学学生で、これまで他大学の単位互換科目を6科目履修してきた方の体験談を下記のとおり共有させていただきますので、参考にしてみてください。

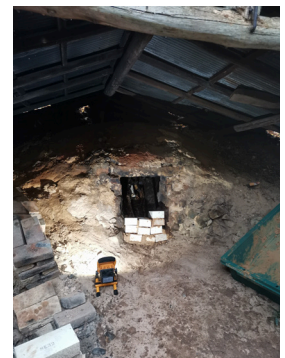
<単位互換制度体験記> 2年次生 石田 隼大

私が単位互換制度を利用したのは、「他の大学の講義はどんな雰囲気なんやろ?」という、ちょっとした興味からでした。分野を絞らず幅広く学びたいという想いもあり、京都大学の「動物自然史」、「野生動物学入門」、「人類と放射線」、「特別森林実習III」、京都産業大学の「天文学と私たち～光の実験室・神山天文台～」、京都府立大学の「生命理工情報学概論」など、様々な分野の計6科目を履修しました。

なかでも印象に残っているのは、「人類と放射線」です。原理や歴史、医療やエネルギー分野など社会における放射線の利用について学んだのちに、京都大学複合原子力科学研究所(大阪府泉南郡)にある原子炉の内部や加速器を見学しました。普段は立ち入ることができない場所での実習では、学内での学修とはひと味違う刺激が得られました。ほかにも、京都大学フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地での実習では、他大学の学生と荒地の利用について方針を立て、自らの手で整備し、活用する過程を体験しました。その経験を通し、過疎地における放置林や耕作放棄といった問題を、より身近な課題として捉えるようになりました。

キャンパス間の移動やレポート作成に苦労することもありましたが、それ以上に得られる学びは大きかったと感じています。単位互換は興味のある分野を学び、単位が認定される一石二鳥の制度です。難しく考えず、気軽に利用してみてください。

※年次は2025年度時点



「特別森林実習」
炭焼きの様子



「人類と放射線」原子炉見学の様子

**「なんで？」を問い続けた先に見つけた、
自分らしい働き方**

私は在学中、薬品分析学分野に所属し、武上教授、木口助教のもとで分子インプリンティングポリマーの研究に取り組みました。研究は答えがどこにもなく、自ら考え行動することの繰り返しで大変でしたが、日々充実していました。研究室の雰囲気も温かく、同期と語り合い、休日には遊びに出かけるなど、仲間に恵まれた学生生活でした。

学生時代の私は、計画的に物事を進めるタイプでした。試験勉強は一か月前から計画を立て、朝9時から夕方18時まで集中する生活を徹底。国家試験対策でも、模試で弱点を分析し改善計画を立てて実行しました。また、ダンスサークルLODで代表を務め、塾講師のアルバイトにも取り組みました。周囲を巻き込みながら物事を進める力や、分かりやすく伝える力は、今の仕事にも生きています。

当初は薬局や病院薬剤師として地域医療に貢献したいと考えていました。しかし実務実習で患者さんと接する中で、「防げる病気があるのではないか」と感じるようになりました。OTC医薬品などのモノやサービスを通じて、より手前から健康にアプローチしたい。その思いから企業という選択肢を考えるようになりました。就職活動では仕事内容だけでなく、会社の雰囲気が自分に合っているかも大切にしました。ロート

製薬は、温かく挑戦を後押ししてくれる社風で、「ここで働きたい」と感じました。入社後もその印象は変わらず、自分に合った環境を選べたと思います。

現在は化粧品の商品企画を担当し、コンセプト設計、市場分析、お客様インタビュー、デザイン検討など幅広く携わっています。マーケティングは未経験からのスタートで苦労もありますが、多くの方に支えられながら日々成長しています。皆で作上げた商品が店頭に並び、お客様の手に届いた瞬間は何にも代えがたい喜びです。

就職活動では迷うこともあると思います。私も「本当にやりたいことは何か」と何度も自問しました。将来像がぼんやりしていても、「なぜそれをやりたいのか」と問い続けてみてください。その積み重ねが、自分らしい道につながります。今は勉強や実習で大変な日々を送っている方も多いと思いますが、どうか身体を大切にしてください。皆さんが積み重ねている努力は、必ず将来のどこかで支えになります。

さわだ かな
澤田 果奈

2024年 学部卒業
薬品分析学分野

ロート製薬株式会社
プロダクト&ブランドマーケティング部
総合職



2026年2月10日(火)、創立130周年記念館において、白衣授与式を挙行政いたしました。

学生に授与した白衣は、教育後援会と京薬会からのご支援によるものです。

白衣授与式は、翌年の新5年次生を対象に病院・薬局での実習前に、将来薬剤師(医療従事者)となる者の責任と京都薬科大学の学生であることの自覚を再度認識させるため、毎年度この時期に開催しているものです。



白衣を受け取る学生代表者

式典では、学生の代表者が副学長から白衣を授与された後、全員が大学名の入った白衣を着用しました。その後、西口副学長から式辞、柴田臨床薬学教育研究センター長からの「実務実習に向けた心構え」の説明後、教育後援会の清水会長様と京薬会の神川監事様からそれぞれ激励の挨拶をいただきました。

最後に学生の代表から「愛学躬行の精神を胸に抱き、努力を惜しまず、全力で実務実習に臨む」との誓いの言葉が述べられ、閉式となりました。



真新しい白衣に袖を通し、心構え新たに

LIBRARY NEWS

長期貸出サービスを開始しました！

「長いお休みの間にゆっくりと本を読むことができるように貸出期間を延長してほしい」とのご要望にお応えして、2025年12月より冬季及び夏季の休業期間中は図書の本長期貸出を実施することとなりました。学部学生、大学院生限定のサービスですが、この期間の返却期限は通常より長く設定されていますので、時間をかけてじっくり本を読むチャンスです。ぜひご活用ください。

【2026年】電子リソース契約の変更・終了について

京都薬科大学図書館で契約する電子リソース(電子ジャーナル、データベース)は、予算や利用頻度などから毎年審議を重ね、中止や新規契約を決定しています。2026年は電子ジャーナル“Annual Reviews”の購読タイトル数を“Annual Review of Biochemistry”ほか5タイトルに変更し、データベース『日経BP記事検索サービス』は2026年3月31日をもって契約を終了することとなりました。

なお、「日経ドラッグインフォメーション」をはじめ、アクセス数の多い上位5タイトルの雑誌については、4月以降は冊子体で購読を継続します。また、1月から新たに「日本医事新報」(冊子体)の購読も開始しました。図書館1F雑誌コーナーに配架していますので、あわせてご利用ください。

本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>



2025年11月4日、京都橘大学と合同で実施している多職種連携教育 (Interprofessional Education; IPE) 研修会を開催しました。2016年度から継続して実施しており、本年度で10回目を迎えました。例年は薬学、看護学、理学療法学、作業療法学の4領域の学生が一堂に会して多職種連携を学んでいましたが、今年度からは多様化する患者背景に対応できる人材育成を目指し、京都橘大学の健康科学部救急救命学科および臨床検査学科を新たに加え、参加学科を拡大して実施しました。

IPEの目的は、「①医療チームの一員として自分の専門職の役割を理解する」、「②他の専門職の視点・考え方・役割を学ぶ」ことです。異なる医療人教育を受けている学生たちが少人数グループディスカッション (SGD) を通じて多職種連携の在り方や考え方を議論し、各職種の強みや弱みを理解したうえで、どのように協働してチーム医療に貢献できるかを考えることを主な目的としています。

本年度の参加学生は合計33名で、内訳は以下のとおりです。京都薬科大学 (5年次) 7名、京都橘大学 看護学部 (4年次) 8名、健康科学部 理学療法学科 (4年次) 6名、作業療法学科 (4年次) 4名、救急救命学科 (4年次) 4名、臨床検査学科 (4年次) 4名でした。

今回の症例シナリオは参加学科の多様性を踏まえ、①119番通報からの救急隊による対応・搬送および病院における救急外来 (ER)・集中治療室 (ICU) での治療に至るまでのシナリオ《フェーズ1 (救急搬送～ER・ICU)》と②ICUから一般病棟に転棟してから在宅療養を見据えた退院に至るまでのシナリオ《フェーズ2 (一般病棟～退院)》の二段階に分けて設定し、各医療系学科の特徴や役割を考慮し、フェーズ1 (救急搬送～ER・ICU) では、薬学科4名、看護学科4名、救急救命学科4名、臨床検査学科4名の合計16名、《フェーズ2 (一般病棟～退院)》では、薬学科3名、看護学科4名、理学療法学科6名、作業療法学科4名の合計17名をそれぞれ2つのグループに分けてSGD、プロダクトの作成および発表を行っていただきました。

臨床薬学教育研究センター | ^{いまにし たかし} 今西 孝至



SGDの様子



プロダクト作成・発表

《フェーズ1 (救急搬送～ER・ICU)》では、救急救命学科の学生による傷病者対応とバイタルサイン測定、搬送先病院の救急医役教員 (健康科学部救急救命学科の医師免許を持つ教員) との間の情報共有および特定行為の依頼についてのケーススタディを実施しました。その後、看護学科や臨床検査学科の学生が必要な検査項目を検討し、検査結果を踏まえて薬学科の学生も交え、必要な処置や医薬品の選択・提案についてSGDを行いました。

《フェーズ2 (一般病棟～退院)》では、フェーズ1で救急搬送された患者が一般病棟へ転棟し、在宅療養を見据えて退院するまでという設定で、薬学科、看護学科、理学療法学科、作業療法学科の学生たちがSGDを行いました。シナリオには、入院中の検査結果や治療方針、退院に向けたカンファレンス、退院時処方、さらに患者の家族構成や自宅の間取りなどの住宅環境情報が記載されており、患者の自立に向けた在宅支援や環境改善、服薬管理などについて各学科の視点から議論していました。さらには、身体面・精神面だけでなく、経済面についても検討が行われていました。

最後に、両フェーズの各グループがSGDの内容をまとめたプロダクトについて合同発表を行いました。学生たちは、自職種と他職種の視点や考え方の違いはもちろんのこと、同一患者でもフェーズの違いによって各専門職の役割やチーム医療としての医療支援に変化が生じることを実感し、とりわけ、フェーズの違いによって自職種の役割に変化があることについて気付く良い機会となりました。

講評では、両大学の教員から「実際の現場でも各職種の専門性を発揮して患者の治療や支援に協力してほしい」「他職種の強みを理解したうえで積極的に連携してチーム医療を実現してほしい」「フェーズが変わると役割も変化するため、各フェーズに応じた役割を想定してチーム医療に貢献してほしい」といったフィードバックがあり、学生たちは真剣に耳を傾けていました。

日本は世界でも類を見ない少子高齢化を迎えており、社会保障費の増大に対応するためにも地域医療は“病院完結型医療”から“地域連携型医療”へとシフトする必要があります。そのためには治療(cure)だけでなく、発症後の介護・福祉を含めたケア(care)も

重要です。学生のうちから自らの専門性だけでなく他職種の役割を理解し、多様な専門職と協働して患者や利用者のニーズに応える実践的能力を身につけることが、医療現場で働き始めたときに円滑なチーム医療を実践するうえで不可欠であり、本研修会は非常に重要な研修会であると考えています。



研修会参加者の皆さん

REPORT

2026年度大学院薬学研究科 薬学専攻博士課程(冬季募集)の入学選考結果

／入試課

2026年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(冬季募集)の入学選考を1月23日(金)に実施し、1月26日(月)に合格発表を行いました。入学選考の結果は表のとおりです。

●2026年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(冬季募集)の合格者数等

	博士課程	2026年度入試合計 (夏季募集含む)
志願者数	2名	9名
受験者数	2名	9名
合格者数	2名	8名

News | 人事

再任用

分析薬科学系 薬品物理化学分野 教授 斎藤 博幸
(任期:2026.1.1~2028.3.31)

統合薬科学研究施設RIセンター 准教授 河嶋 秀和
医療薬科学系薬物動態学分野 講師 伊藤由佳子
(任期:2026.1.1~2030.12.31)

契約期間満了

事務局施設課 契約専門職員 山下 登
(2025.12.31付)

採用

事務局進路支援課 課長 高田 眞介
(2026.2.1付)

出向期間満了

事務局進路支援課 課長 高田 眞介
(2026.1.31付)

私の薦める、私の一冊



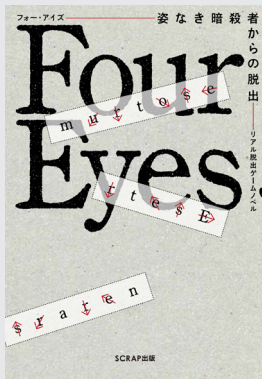
『サプリメントの不都合な真実』

畝山智香子
ちくま新書 (2025年)

薬理学分野
教授 田中 智之

健康食品と食品添加物、健康に対するリスクが高いのはどちらでしょう？玉石混淆の情報発信が制約なく行われるようになった現在では、十分な知識を持たないまままで正しい判断をすることは困難です。本書は、小林製薬の紅麹食品による健康被害を受けたものですが、食品のリスクが分かりやすく説明されています。第1章は紅麹問題の経緯が説明されていますが、報道が一段落した今、その被害の大きさに改めて驚かれることと思います。著者は国立医薬品食品衛生研究所時代には安全情報部長として、「食品安全情報blog」を運営されていました。退職された現在は「野良猫 食情報研究所」(<https://foodnews.hatenadiary.com/>)と衣替えをしています。食品リスクに関する最新情報の紹介と的確な寸評は相変わらずです。本書でも随所に切れの良い著者からの助言を見つけることができます。紅麹は「機能性表示食品」ですが、この制度は2015年に始まりました。著者は「健康食品のことがよくわかる本」において科学的根拠

の信頼性に乏しい健康食品が跋扈することを予想していましたが、10年も経たないうちにリスクは顕在化しました。業界だけではなく、研究者や大学教授にも食品成分の機能に関する論文を業績としている人が増加し、団体として大きな力をもつようになった以上、改善は難しいという著者の分析は辛口ですが、その通りだと思います。最終章はそうした現状に対する著者からの提言です。薬剤師法の第1条では、「調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保する」ことが薬剤師の任務とされています。健康食品のほとんどがうたわれている効果に関するエビデンスは弱く、一方で明瞭なリスクはあるという苦い事実を説明することへの軋轢は少なからずあるでしょうが、薬剤師の本来の使命も忘れてはいけません。



©SCRAP

『リアル脱出ゲーム
ノベル Four Eyes
～姿なき暗殺者からの脱出～』

SCRAP/稲村祐汰 著
SCRAP出版(2021年)

学生実習支援センター
助教 高田 哲也

皆さんは“リアル脱出ゲーム”という言葉をご存じでしょうか。“リアル脱出ゲーム”とは、参加者が一堂に会し、謎や暗号をひらめきや推理力を駆使して制限時間内にすべて解き明かし、脱出を目指す体験型イベントです。ちなみに、日本初のイベントは2007年に京都で開催されたそうです。そんな“リアル脱出ゲーム”を手掛けるSCRAPが出版したリアル脱出ゲームノベル第1弾「Four Eyes～姿なき暗殺者からの脱出～」を今回ご紹介したいと思います。

舞台は東京。元ヤクザの探偵のもとに捜査依頼が舞い込むところから物語が始まります。その依頼内容は、殺害後に左眼をえぐり取って集める連続猟奇殺人鬼「コレクター」に命を狙われているため、正体を突き止めて命を守ってほしい、というものでした。物語は章ごとに分かれた連作短編のような構成になっており、社長令嬢や悩みを抱えた中学生、クイズ好きの情報屋といったさまざまな人物たちと出会い、新たな事件やトラ

ブルに巻き込まれながらも、次々と現れる謎や暗号を解き明かしていきます。そして最後には、これまでの物語が収束し、事件の全貌、そしてコレクターの正体が衝撃の真実とともに明らかになります。

謎解きの難易度は比較的易しめですが、謎解きに詰まった場合でもヒントや解答が用意されているため、初心者でも安心して楽しめる一冊になっています。もちろんストーリーだけを追っても十分に面白いですが、ぜひ自力で解答を導き出し達成感を味わってください。各章の結末や真相は謎を“正しく”解き明かすことで大きく反転するのも、この本の醍醐味になっていますので、ぜひ楽しんでいただければと思います。私からのコメントとしては、まずは“素直に”解いてみることをおすすめします。

何か学びが得られる本というわけではありませんが、勉強や仕事の気分転換にはピッタリだと思いますのでご興味のある方は、ぜひ読んで挑戦してみてください。

学生相談室 だより

自己理解とストレス対処

臨床心理士 上野 みな子

／学生課

春は、別れと出会いの季節です。そして、三寒四温というように気候の変化も大きい時期です。環境の変化、人間関係の変化、さまざまな変化が起きやすいこの時期は、知らず知らずのうちにストレスを貯めてしまうことも少なくありません。

人がストレスによって、心身の状態を崩してしまう時、まずストレス要因が存在し、そのストレスを個人がどのように捉えるのかという段階があり、その捉え方によって個人に起きる反応が異なります。例えば、「明日、グループ内で自己紹介をしなければいけない」というストレス要因があるとします。Aさんは、「人前で話すのはとても苦手。うまくできそうにない、とても不安でこわい」と捉えるので、前日からほかのことは手につかず、ソワソワして食欲もわきません。気持ちが重たくなりため息ばかりついてしまいます。Bさんは、「緊張はするけど、みんなに自分を知ってもらうチャンス。ほかの人のことも知ることができる場面だし楽しみだな」と捉え、何を話すかを考えたあとは、いつも通りほかのやるべきことをしながら過ごしています。このように、同じ状況を目の前にしたとき、それに対する捉え方で自分自身

の心身の反応や行動に大きな違いが出てきます。

みなさんは、自分自身にとってのストレス要因、そして、自身の考え方、捉え方のクセ、それによる気分や行動への影響について、しっかりと理解できているでしょうか？「こういう時に自分はしんどくなってしまうな」という流れについて理解を深められると、より有効な対応策を考えることにつながります。具体的には、自身の捉え方や考え方に変化をもたらし、捉え方の幅を広げるための練習をしていく方法、心身の不安や緊張に対処する方法、自分の行動パターンを変えていく方法など、さまざまな方向性からアプローチが可能です。

自分なりのストレス対処をしていくには、まずは自己理解を深めることが大切です。例えば、学生相談室を利用して、考え方のクセや行動パターンへの理解を深めつつ、自分自身を客観的に捉える練習をしてみるということが可能です。そこで得られた理解や、体得した生活の送り方は、ひいてはこれからの長い人生に役立つものとなっていくでしょう。学生相談室は、そのようなお手伝いができる場所だと考えています。ご利用お待ちしております。

学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。

相談は臨床心理士・公認心理師の資格を持つカウンセラーが担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保証人や教職員の方からの相談も可能です。

相談申込み・問い合わせ先

相談を希望される方は下記申し込みフォームまたはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。なお、対面相談のほかに、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

学生相談室 育心館 4階

■開室(受付)時間：月～金 8:45～17:15

■電話：(075)595-4672(建部) / (075)595-4686(上野)

■学生相談室メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp 申込フォーム：<https://www.kyoto-phu.ac.jp/contact/support.html>



本学で活動しているクラブ・サークルの一部を紹介します。

● 硬式庭球部

月、水、土の週3日、活動しています。経験問わず大歓迎です！ぜひ一度体験に来てください！お待ちしております^^



● ヨット部

琵琶湖で土曜日と第三日曜日に活動しています。初心者でも始めやすい部活です！一緒に琵琶湖の風を感じてみませんか？



● 女子バスケットボール部

プレイヤー11人、マネージャー8人で先輩後輩関係なくわちゃわちゃ楽しく活動しています！

雰囲気だけでも体験しに、ぜひ遊びにきてください！



● 空手道部

部員全員空手未経験！先生をお招きして型を練習しています！黒帯目指して頑張ってます！



● 京炎そでふれ！京躍華

振り・衣装・曲、すべて自分たちで作っています。私たちと舞台に立って、一緒に青春しましょう！



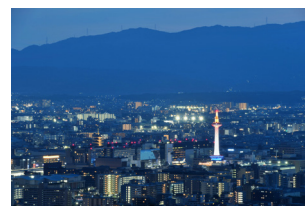
● ギター・マンドリン部

火曜日と金曜日に活動しており、文化祭や図書館演奏、入学式に向けて練習しています。ぜひ見学に来てください！



● 写真部

京都はどこへ行っても写真を撮りたくなる、そんな街だと思いませんか！？そんなあなたにぜひ写真部の入部がオススメです！！



写真部は月に1.2回程度の主に土日に活動しております！！活動場所は主に京都市内で、少し遠出した夏合宿なども行っており素晴らしい学生生活を送れること間違いありません！



● 合唱部（ユーベルコール）

歌うことが好きな仲間が集まり、和気あいあいと活動しています。

ピアノ伴奏者も募集中です。新歓でお待ちしています！



● Friwilly（ボランティア部）

児童館での実験会や、その準備をメインに活動しています！

一緒に楽しい実験を考えてみませんか？
新歓お待ちしております！



REPORT

受賞・掲載

臨床薬剤疫学分野の冢瀬諒助教が日本医療薬学会において奨励賞を受賞しました

2025年11月23日（日）に開催された日本医療薬学会において、臨床薬剤疫学分野の冢瀬諒助教が奨励賞を受賞しました。

受賞者：臨床薬剤疫学分野 助教 冢瀬 諒
演題：多様なリアルワールドデータを駆使したがん領域における副作用の評価と医療薬学研究の新たな展開
演者：冢瀬 諒



薬物動態学分野が報告した学術論文がBiol. Pharm. Bull. 誌のFeatured Articleに選出されました

薬物動態学分野が報告した学術論文がBiol. Pharm. Bull. 誌のFeatured Article選出にされました。

タイトル：Association of Plasma Creatinine with Systemic Exposure to S-1 and Oxaliplatin in Two Types of Chronic Kidney Disease Animal Models

著者：Takumi Tanaka, Aika Tanaka, Shinji Kobuchi, Yukako Ito, Toshiyuki Sakaeda

掲載巻号：Biol. Pharm. Bull. Volume 48 Issue 10 Pages 1493-1502. 2025
論文掲載サイト：https://www.jstage.jst.go.jp/article/bpb/48/10/48_b25-00361/_article/-char/ja

第15回4大学連携研究フォーラムにおいて、本学の学生2名が優秀賞を受賞しました

2025年11月26日に開催された「第15回4大学連携研究フォーラム」において、本学の学生2名が優秀賞を受賞しました。

※優秀賞は、ポスターセッション学生部門（全51課題）の中から、上位5課題に授与されるものです。

【優秀賞】

受賞者：薬品物理化学分野 博士課程4年次生 南波 憲宏
演題：シナプス小胞膜リン脂質組成による α -synucleinの脂質膜結合挙動の変化

演者：南波 憲

共同研究者：有吉 志千里、城下 穂乃里、吉村 典久、扇田 隆司、大石 真也、斎藤 博幸

【優秀賞】

受賞者：薬物動態学分野 博士課程4年次生 田中 拓実
演題：慢性腎臓病モデルラットを用いたSOX療法における薬物動態評価と腎バイオマーカー解析

演者：田中 拓実

共同研究者：田中 愛花、河淵 真治、伊藤 由佳子、柴田 敏之

薬物治療学分野の徳山珖雅さんが第148回日本薬理学会近畿部会において学生優秀発表賞を受賞しました

2025年11月28日（金）に開催された第148回日本薬理学会近畿部会において、薬物治療学分野 博士課程4年次生の徳山 珖雅さんが学生優秀発表賞を受賞しました。

受賞：薬物治療学分野 博士課程4年次生 徳山 珖雅

演題：オーファンGタンパク質共役型受容体 GPR35の大腸炎の病態における役割：腸上皮バリアおよび免疫応答制御との関連

演者：徳山 珖雅、安田 浩之、林 周作、齊藤 美知子、加藤 伸一



薬品分析学分野の木口裕貴助教が報告した学術論文がBiol. Pharm. Bull. 誌のFeatured Articleに選出されました

薬品分析学分野の木口裕貴助教が報告した学術論文がBiol. Pharm. Bull. 誌のFeatured Articleに選出されました。

タイトル：Pinpoint Insertion of a Single Amino Acid into a Framework Region Enhanced the Affinity of an Anti-cortisol Antibody to Enable Sensitive Immunoassays

著者：Yuki Kiguchi, Izumi Morita, Norihiro Kobayashi, and Shigehiko Takegami

掲載巻号：Biol. Pharm. Bull. Volume 48 Issue 11 Pages 1753-1761. 2025

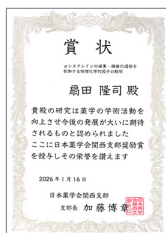
論文掲載サイト：https://www.jstage.jst.go.jp/article/bpb/48/11/48_b25-00508/_article/-char/ja

共同利用機器センターの扇田隆司助教が2025年度 日本薬学会関西支部奨励賞を受賞しました

共同利用機器センターの扇田隆司助教が2025年度日本薬学会関西支部奨励賞を受賞しました。

受賞者：共同利用機器センター 助教 扇田 隆司

演題：αシヌクレインの凝集・線維化過程を制御する物理化学的因子の解明



国際共同研究の成果について薬事日報に掲載されました

国立台湾大学との共同研究での成果について、薬事日報（2025年12月10日）に掲載されました。（代表：薬物動態学分野 河津真治助教）

ダウン症の脳発達に関する研究成果について薬事日報・京都新聞に掲載されました

ダウン症の脳発達に関する研究成果について、薬事日報（2025年12月17日）および京都新聞（2026年1月14日）に掲載されました。（代表：病態生化学分野 石原慶一准教授）

本学の次期学長の決定について朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・京都新聞・薬事日報に掲載されました

本学の次期学長の決定について以下の5紙に掲載されました。

- ・朝日新聞（2025年12月23日）
- ・毎日新聞（2025年12月23日）
- ・読売新聞（2025年12月23日）
- ・京都新聞（2025年12月23日）
- ・薬事日報（2026年1月9日）

新聞記事の一覧についてはこちら

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph>



京都薬科大学 奨学寄附金芳名録

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

.....
*敬称略、芳名のみ掲載しております。

*100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2025年12月～2026年2月にご寄附をお寄せいただいた方々

卒業生・同期会等 (五十音順)

秋山 樹右	岡田 敬治	澤岡 平和	長屋ちとせ	本多 正英
蘆田 康子	岡部 圭子	寸田 靖	新留 香二	松田 絹子
東 富雄	岡本 光弘	高井マサ代	西野 武志	三谷 高徹
東 貴美子	小川 哲男	高越 清昭	秦 純二郎	宮崎喜徳郎
綾部 雅樹	奥林 活人	高橋 佳子	秦 雅子	宮本 茂敏
荒川 毅	尾崎 朋久	高橋美那子	服部 恵子	村山猪一郎
五十嵐 聡	掃部 巍	高山 和子	林 秀樹	本岡美智子
池崎 宗克	川口たか子	竹田 秀一	樋口 清美	安田 仁
石黒 啓司	川島 英美	武田 忍	平原 靖子	山岸 伸行
稲垣 美幸	川嶋 義之	田中真知子	廣海 玄勝	山口 博行
岩崎 修久	木口 卓也	張 賢二	深津 紀子	横井喜代四
岩瀬 弘子	木曾江律子	土屋 勝	藤井 信夫	吉見 美保
岩田 民喜	木村伊玖子	富永 護	藤井本一博	和田井 収
岩田 光子	黒岩 屹	長岡 諭	藤原 洋一	渡辺 由佳子
上田 公一	呉 晃一郎	中川 佳子	古本 靖弘	平成3年度卒業生 有志一同
大見 博志	小谷 和彦	中川 幸紀	古本 良子	
大森由美子	坂口 昌弘	中村 悦子	古家 雅代	

卒業30周年記念募金 (平成8年卒業生)

石原 慶一 松本 祥子

卒業50周年記念募金 (昭和51年卒業生)

高田 珠子

保証人 (五十音順)

石村 英之 土肥 慶治 本多 恭子
上田 初雄 東 京子 柳垣 孝広

企業・団体・一般 (五十音順)

京都漢方研究会

法人役員・評議員・職員等 (五十音順)

秋葉 聡 (教授) 北田 徳昭 (教授) 中谷 庄吾 (課長)
木曾 誠一 (理事長) 児玉 孝 (評議員) 西口 工司 (副学長)

(2026年2月28日現在)

●ご寄付のお願い

本学では皆様からのご寄付で様々な支援を行っています。
引き続き温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。
詳細は本学公式Webサイトよりご覧ください。
<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/contribution/>

